

第 10 回 苫小牧市食育推進協議会 開催結果

日 時	令和 3 年 10 月 29 日 (金) 18 : 30 ~ 19 : 40
場 所	市役所 9 階 議会大会議室
出席委員	五十嵐 (昭) 委員、五十嵐 (寛) 委員、斉藤委員、重田委員、 高橋委員、辻屋委員、野村委員、福原委員、藤岡委員、山内委員 (敬称略、五十音順)
事務局	健康こども部健康支援課
会議次第	1 開会 2 部長挨拶 3 委員長挨拶 4 委員自己紹介 5 事務局紹介 6 議事 (1) 第 2 次苫小牧市食育推進計画 (素案) について (2) 関係団体の食育に関する取組の情報提供について 7 その他 8 閉会
議事録	別紙のとおり

第10回 苫小牧市食育推進協議会 議事録

○出雲課長補佐 定刻となりましたので、ただいまから第10回苫小牧市食育推進協議会を開催いたします。委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただき誠にありがとうございます。本日も司会を務めます健康支援課課長補佐の出雲と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

開催に当たり、健康こども部長よりご挨拶を申し上げます。

(桜田健康こども部長 挨拶)

令和3年9月の書面会議において、委員長に苫小牧市中学校長会推薦の五十嵐昭広様、副委員長には、本日欠席されておりますが、苫小牧商工会議所推薦の市町峰行様をご承認いただいております。五十嵐委員長からご挨拶を頂戴したいと思います。

五十嵐委員長、よろしくお願いいたします。

(五十嵐(昭)委員長 挨拶)

ありがとうございました。

本日の協議会は今期委嘱後の初顔合わせとなりますので、委員の皆様から自己紹介をいただきたいと思っております。皆様のお席にマイクを設置しておりますので、発言の際はボタンを押していただき、終わりましたらもう一度押していただきますようお願いいたします。

それでは、お席順に五十嵐寛明委員から、座ったままで結構ですので、よろしくお願いいたします。

(各委員 自己紹介)

ありがとうございました。次に、事務局の職員を紹介いたします。

(事務局 紹介)

これより議事に入りますが、本日は12名中10名の委員の皆様にご出席いただいておりますので、苫小牧市食育推進協議会設置要項第6条第2項に基づきまして本協議会が成立していることをご報告申し上げます。

議事に入ります前に、お手元の資料を確認させていただきます。

本日配付させていただいております次第、別紙1、事前意見・質問回答、別紙2、取組事業調査回答、苫小牧市食育推進協議会委員名簿、座席表、以上の5点は全ておそろいでしょうか。また、委員の皆様には、事前に本日の会議資料を送付させていただいておりましたが、資料1、第2次食育推進計画策定に当たっての方向性、資料2、第2次苫小牧市食育推進計画(素案)についてご説明をさせていただきます。

なお、次第については事前配付しておりましたが、本日配付したものと差し替えていただきま

すようお願いいたします。

なお、本日の会議は20時頃をめどに終了したいと考えておりますので、円滑な議事の進行にご協力くださいますようお願い申し上げます。

それでは、これからの司会進行は、苫小牧市食育推進協議会設置要項第5条第4項に基づき委員長をお願いしたいと思います。

五十嵐委員長、よろしくお願いいたします。

●五十嵐(昭)委員長 それでは、議事に入ります。

議事の1、第2次苫小牧食育推進計画(素案)について、事務局から説明をお願いいたします。

○草賀主査 健康支援課の草賀と申します。

私のほうから議事1、第2次苫小牧市食育推進計画(素案)の説明をさせていただきます。着座にて失礼し、ご説明いたします。

前回の協議会が書面での開催となりましたので、その結果について簡単にご説明させていただきます。第9回の書面会議では、皆様に食育推進計画の実施結果、実施計画調査や2021年度苫小牧市食育に関するアンケート調査の結果を報告させていただき、アンケート調査の結果から数値目標の達成度を評価し、課題を整理いたしました。それにつきまして皆様から様々なご意見をいただいたところです。素案の作成につきましては、皆様からのご意見と国の第4次食育推進計画の重点課題を踏まえて、本市の取組の方向性を検討いたしました。

それでは、資料1をご覧ください。第2次苫小牧市食育推進計画に当たっての方向性についてご説明いたします。

国の第4次食育推進計画が令和3年度に策定され、資料1では表の一番左側に国の重点事項を示しています。国の重点事項は3点上げられており、1、生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進、2、持続可能な食を支える食育の推進、3、新たな日常やデジタル化に対応した食育の推進としています。本市の第2次計画の基本的な考え方につきましてはこの表の中央にあります主な取組として、1、基本的な食習慣の形成による健康的な体づくり、2、生産から消費について考え食品ロスを意識した食育の推進、3、新たな生活様式を取り入れたデジタル化に対応した食育の推進の3点を市として取組が必要と考えるものとして見いだしました。そして、その取組の評価指標として一番右端に7点の評価指標を設定いたしました。この評価指標はその後説明いたします素案第5章、食育推進に当たっての数値目標に反映しています。

それでは、資料2、素案についてご説明いたします。資料2をご覧ください。

目次、次の1ページ目には、カラー刷りになっているところですが、食育とは、を分かりやすく説明するため、農林水産省啓発リーフレットを引用し掲載いたしました。

2ページ、第1章、計画策定に当たっては、本市の本計画の趣旨、目的を説明しています。第2次計画は平成29年に策定した第1次計画から5年が経過し、食をめぐる環境が大きく変化し、食に対する価値観や暮らしの多様化が進む中、国際的な観点では国連サミットで採択されたSDGs、持続可能な開発目標の取組が進められており、食育との関連が深いこと、また新型コロナウイルス

ス感染症の流行により新たな日常やデジタル化に対応した食育の推進が重要であり、これらを踏まえた計画としています。

3 ページ目、計画の位置づけは、1 次計画との変更はありません。

続きまして、4 ページ目をご覧ください。第2次計画策定に当たり、令和3年5月に実施しました2021年度苫小牧市食育に関するアンケート調査の調査期間、対象者や回収状況について、またアンケート以外での関連する調査項目について掲載しています。

5 ページ、第2章、苫小牧市の食をめぐる現状と前計画の評価では、現在の社会情勢と2021年度市民アンケート調査の結果を基に、第1次計画で上げた指標の評価を行い、課題と今後の方向性を示しております。1、食をめぐる社会情勢の変化、(1)人口の推移について、現時点での本市の人口はまだ表記しておりませんが、令和3年10月末時点での人口、世帯数を掲載する予定です。令和2年に実施されました国勢調査結果の反映が間に合えば、図表中の令和2年の人口は推計ではなく実数を表記する予定です。

8 ページをご覧ください。2、前計画の評価と食をめぐる現状について、(1)朝食の摂取状況から27ページの(8)食育への関心までは、第1次計画で上げていました9つの指標を評価し、課題と今後の方向性を示しました。9つの指標のうち、課題となった項目について取り上げ、説明させていただきます。緑色の欄の前回値、目標値、現状値、達成度を表にして表しています。達成度は注釈1のとおり、AからDで評価いたしました。

(1)朝食の摂取状況、朝食を毎日食べている人の割合についてです。小学生の1次計画策定時は84.7%であったのに対し85.2%に微増、目標達成度はBとなっています。15歳以上の市民では、75.4%から69.5%に減少しており、達成度はDとなっています。

課題と今後の方向性として、12ページをご覧ください。高校生や20代の朝食欠食率が高く、その原因として、基本的な生活習慣を習得し継続していくことが重要であると整理しております。

続きまして、16ページをご覧ください。(3)体格の状況です。1次計画では、3歳、小・中学生、30歳代男性の肥満の割合と30歳代女性の痩せの割合を評価指標としていました。3歳児、小学生、中学生、全ての子供の肥満の割合は増加しています。30歳代男性の肥満は減少しましたが、目標値までは達成していません。30歳代女性の痩せの割合は減少しています。

次の18ページ、課題と今後の方向性としては、肥満は生活習慣病の要因となるため、健康寿命の延伸のために子育て世代から壮年期にかけて健康な食生活が実践できるよう働きかけることが必要です。

続きまして、23ページの食品ロス削減への意識についてです。23ページをご覧ください。

食品ロス削減を意識して実践する人の割合を指標としておりましたが、76.1%から79.9%に増加し、達成度はBです。食品ロスを意識し実践する人の割合が増え、削減の重要性については浸透してきていると考えられます。

24ページに家庭の生ごみに含まれる食品ロスの割合ということで、厨芥類の組成分析のデータを掲載いたしました。このグラフは平成30年度と令和元年度の平均値で算出しています。家庭の

生ごみのうち約4分の1が食品ロスと言えます。課題と今後の方向性として、食品ロスの重要性は浸透してきていますが、目標値には達成しておりません。SDGsにおいて生産から消費までの環境負荷を低減できるよう環境と調和の取れた食料生産と消費に配慮することが重要とされていることから、引き続き食品ロス削減への取組を実践していくことが必要と考えています。

最後に、27ページ、(8)食育への関心についてです。

食育に関心がある人の割合は59.9%から57.8%に減少しており、達成度はCでした。苫小牧市民の食育に関する関心度は減少しており、全国から比較しても低い状況です。

30ページをご覧ください。課題と今後の方向性についてですが、特に食育への関心が低い若年層に向けたPRの方法としてデジタルツールの活用について検討する必要があるとしています。

第2章で課題と今後の方向性を整理しましたが、基本目標と主な取組を上げたものが31ページの第3章、第2次食育推進計画の基本的な考え方となります。

1、基本目標と主な取組です。第1次計画で定めた「生涯にわたって健全な食生活を実現し豊かな心と健やかなからだをつくります」の基本理念を引き継ぎ、3つの目標と6つの主な取組によって食育のさらなる推進を図ります。基本目標1は、「食」を学び、健康なからだをつくります。その下、基本目標2は、「食」を楽しみ、感謝の気持ちを育みます。基本目標3は、「食」にふれあい、食育への理解を深めます」としました。基本目標1と2は第1次計画から引き継いでおります。基本計画3は、第1次計画の「食」にふれあい、苫小牧の味を伝えますから、「食」にふれあい、食育への理解を深めます」へ変更しております。課題について主な取組を6つ上げております。

次のページ、32ページからは、第4章、食育推進の取組として、食育推進のための具体的な取組を掲載しています。第2次計画では基本目標ごとにSDGsのピクトグラムを表示いたしました。基本目標1に対する具体的取組には基本的な生活習慣の形成による基本的な体づくりを進めていくこととし、(1)生活リズムの形成による食習慣の確立、(2)各ライフステージにおける健康的な体づくりを行っていきながら食育の推進を図っていきます。

33ページから、市の取組として施策を一覧にしてしております。新たに加えたものをNEWで表示いたしました。また、第2次計画はより食育に直結した事業のみ掲載することとし、第1次計画で上げていました事業の中で食育に関連する事業は事業名のみ掲載といたしました。基本目標1、市の取組では、34ページ、16番、重症化予防事業、24番、防災講座が新しい取組として掲載しました。また、35ページに関係団体の取組と欄を設けさせていただきました。第1次計画策定時にも委員の皆様から関係団体の取組について情報をいただきました。今回の2次計画でも基本目標ごとに掲載したいと考えておりますので、ご協力をいただければと考えております。その点につきましては、議事2でご説明させていただきます。

36ページ、基本目標2では、生産から消費について考え、食品ロス削減を意識した食育の推進を進めていくこととし、(3)地産地消の推進、(4)食品ロスの削減について取り組んでいきます。新たに、38ページ、45から47番の事業を加えましたが、45番、情報媒体などによる消費者へ

の啓発においては、くらしのニュースは以前から発行していましたが、地産地消や食品ロスなど食育に関する情報を発信することをさらに意識していくこととし、取組として掲載いたしました。46番、フードドライブ事業や、47番、ユーチューブでの動画配信を新しい取組として、食品ロス削減への意識が高まり行動へ結びついていくことを目指します。

続きまして、39ページ、基本目標3では、新たな生活様式を取り入れたデジタル化に対応した食育の推進に取り組んでいくこととし、(5) 家族での共食の推進、(6) 食育の関心を高めるための情報発信を行っていきます。デジタルツールを活用した健康教室や食育についての情報発信を新たなメニューとして加え取り組んでいきたいと考えております。

続きまして、42ページの第5章、こちらは第2次計画の数値目標を上げております。第1次計画の目標は9項目ありましたが、達成できていたものは省き、課題を整理し7項目としました。黒丸で記しているものが第1次計画から変更した指標になります。指標の2番目について、第1次計画ではバランスの取れた食生活を意識する人の割合としていましたが、バランスの取れたという解釈が自身の主観による判断が強いと考えられたため、国の指標に合わせて、主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日2回以上、ほぼ毎日食べている人の割合に変更しています。また、指標の下から2番目の共食についての指標は、第1次計画では朝食と夕食それぞれ目標値を定めていましたが、第2次計画では国の評価指標と合わせまして、朝食と夕食のどちらか共食する割合に変更いたしました。

次に、表の現状値です。中央にある黒丸の20から60代男性の肥満の割合について、第1次計画では指標の対象者を30歳代の男性の肥満の割合としていましたが、第2次計画では国の対象者指標と合わせまして、20から60歳代の男性と変更いたしました。

最後に、一番右端の令和8年度の目標値ですが、上から2つ目の15歳以上の市民で朝食を毎日食べている人の割合と、一番下、食育に関心がある人の割合について、現状値と目標値との乖離が大きかったため下方修正し、令和2年度の国の現状値を目標値といたしました。

43ページ、第6章、計画の推進体制につきまして、役割を改めて確認し、第1次計画から若干修正しております。市民、家族の役割には具体的に食育とはどのようなことかが分かるよう取組例を追記いたしました。

最後に、今回掲載しておりませんが、コラムを計画の中に取り入れ、食育に関する情報を掲載していく予定であります。次回の素案の修正で皆様にお示しできればと考えております。

以上、素案についてご説明をさせていただきました。

●**五十嵐（昭）委員長** それでは、ただいま説明がありました議事1につきましては、事前に委員の皆様から質問をいただいております。別紙1に回答が記載されておりますが、内容について補足を含めまして、重田委員から発言をお願いいたします。

●**重田委員** 2つほど意見を出させていただきました。

まず、今回の素案の主な取組、基本目標3の主な取組の中に、食育の関心を高めるための情報発信というのがあります。そして、この素案を見ていきますと、まず冒頭に食育とはということ

ろが目に入りまして、食育、主な取組に書かれていることを取り組んでいくためには、まず食育というのをきちんと分かりやすく周知をしていったほうがいいのではないかなというふうに思いました。前回計画では冒頭のところで食育の定義というのが記載をされておまして、国が言ってる定義を載せていただいていたんですけども、今回の素案に書いてある文章とその定義をうまいことつなぎ合わせると、食育ということがより分かりやすくなるのではないかと。主な取組をまず進めていく上で、一番最初の食育とはというところを分かりやすくできるんじゃないのかなというふうに少し思いまして書かせていただきました。

続きまして2つ目の意見です。42ページの数値目標のところですが、一覧で数値目標、指標、現状値、目標値ということでまとめていただいております。片や、これの前段、8ページ、前計画の評価と食をめぐる現状というところで、前回数、ここでは指標、前回数、目標値、現状値、達成度というふうに表でまとめていただいて、それぞれの項目ごとにこの表を掲載していますけれども、一目で分かるように42ページでまとめていただいている、前計画のところからも比較して見ていけるようにしたほうがより分かりやすいのかなというところで意見を出させていただきました。以上です。

- 五十嵐（昭）委員長 回答につきましては記載どおりでありますけど、補足については一括、後ほど事務局から提示いただきますので。

続きまして、斉藤委員、お願いをいたしたいと思います。

- 斉藤委員 よろしくお願ひします。15ページの主食、主菜、副菜を組み合わせた食事の摂取状況というところなんですけれども、先ほどバランスの取れた食事というのは理解の仕方が様々だというようなお話があったのと同様と考えてこちらを書かせていただきました。一般的に主食、主菜、副菜というと、ご飯、焼き魚、お浸しのようなイメージを持たれて、これは食べている、でも、食べているって思われる方と、そういう組合せじゃないので私は食べてませんという表記をしている可能性があると思ひました。例えばカレーライスのご飯とタマネギやニンジン、お肉ということで主食、主菜、副菜が取れるような、あと鍋などもありますので、そういうような絵で表示して、このようなお食事を取られてますかということで表示するともう少しパーセンテージがもしかしたら上がるのではないかって。実はこれ特定保健指導の研修を受けた際に講師の方がおっしゃったことなんですけど、それで書かせていただきました。

それと、それに付随してなんですけど、コラムとかそういうところで主食、主菜、副菜を取りましようという表記はもちろんかとは思ひんですが、これも研修の中でナッジ理論というのが、市役所の方ご存じだと思うんですけど、そつとその人の行動を促すような表現の仕方というような理論があつて、そういうような表記をちょっとコラムとか何かの際に使っていただけると、あ、じゃあやってみようかなというものにつながるかなと思ひて、いろいろ言葉考へてみたんですけどちょっと私は思ひつかないので、皆さんでその辺りの表記を加えていただけると、親しみやすく食事を取組ができるかと思ひました。以上になります。

- 五十嵐（昭）委員長 それでは、続きまして、高橋委員、お願いいたします。

●高橋委員 拙い質問にご回答ありがとうございました。この全体のアンケートを見まして、朝食を取らないとか、野菜の摂取が少ないとか、肥満の傾向にあるとかというのを見て、それぞれの方のライフスタイルや収入によって、やりたいけどできないという方がいるんじゃないかなと思いました。

それと、今核家族になって、昔だったら家庭の中で食育というのができてたと思うんですが、親も働いていて、そういう意識のある方のところで育った方にはそういうちゃんとした食生活とかの習慣が身につくと思うんですけども、親が働いていて、今は本当にお金を出せばコンビニとかでいろいろ食品とか買って食べられますよね。それでやっぱり好きなものしか食べられないとかそういうもので偏食傾向にあるんじゃないかなって思うんです。それで、そういう何か指導というのはなかなか難しいんじゃないかなって感じました。

あと、単独世帯の男性の方とか朝食を取る傾向が少ないとかそういう栄養の偏りがあるんじゃないかって思うのは、やっぱり一人暮らしで働いていたら食事を取る、割く時間とか少なくなると思うんです。それで、忙しかったらやっぱりそういう中食を利用して自分の時間に充てたりとかということで、なかなか自分、健康診断とかで体に悪い数値が出るまでそういう食生活を続けて、何か引っかかってから慌てて食生活を気をつけるという方が多いんじゃないかなって思いまして、そういう方たちの健康を未然に防ぐにはどのような感じで皆さんに周知していかれるのかなというところをお聞きしたいかなって思っていました。以上です。

●五十嵐（昭）委員長 各委員から発言がありました。今の発言に対しまして、回答においての補足があれば事務局よりお願いをいたします。

○草賀主査 3名の委員の皆様、ご意見ありがとうございました。

別紙1で回答しておりますけれども、重田委員、斉藤委員からのご意見により、より、この計画に、重田委員からは食育とは、の具体的な掲載をすることでより食育についての意味が伝わりやすいかと思しますので、そのように加えさせていただき、修正したいと思います。

斉藤委員からのご意見にありましたように、今回のアンケートでは具体的な例示はしませんでした。次回のアンケートではカレーライスや鍋でも取れるのだというような表記にすることで、バランスの取れた食事のハードルが下がり、摂取しているという市民も多く、回答につながるかと思しますので、掲載していきたいと考えております。また、先ほどコラムへの掲載についても具体的にご意見ありがとうございました。さらにコラムでやってみようと思える、市民に親しみやすいようなコラムの掲載ができますように考えたいと思っております。

最後に、高橋委員からのご意見ですけれども、1つ目のほうではこちらに表記してあるとおり、所得と体型は、国民栄養調査から所得と野菜摂取量、所得と体型は関係があると言われております。所得が低いと野菜の摂取量は少なく肥満の割合も低いという結果が見られております。あと、最後に単独世帯の方の食事の摂取についてですけれども、なかなか1人だと食事も難しいところになるかと思っておりますが、中食を利用する場合であっても自身の健康を意識して食品を選ぶことができるという視点が大切だというふうに考えております。一人暮らしで健康診断、食事につ

いて、健康診断の結果で食を意識するということですのでけれども、なかなかその状況については判断が難しいところです。

●**五十嵐（昭）委員長** ただいまの回答につきまして何かありますか。よろしいですか。

それでは、議事1につきまして、そのほかご質問やご意見等がありましたら挙手をお願いいたします。議事1につきましてはよろしいでしょうか。

それでは、続きまして議事2に入ります。

議事2、関係団体の食育に関する取組の情報提供についてであります。事前に2つの団体から情報提供をいただいております。内容について別紙2に記載しておりますが、委員から説明をお願いいたします。

重田委員、お願いいたします。

●**重田委員** まず、3つほど出ささせていただきました。まず1つ目が、いぶり食育推進ネットワークの参画というものになっております。いぶり食育推進ネットワーク、これは食育に関連するような団体さんに参画をしていただいて、それぞれの分野の食育に関するような情報ですとかそういうものをいろいろ集め、情報を集めて、それらを共有して何かもっと食育を推進するための方策を検討するような、簡単に言うとそういうようなネットワークになっておまして、事務局が胆振総合振興局の農務課というところで持っておまして、その幹事に苫小牧保健所、それから、これは胆振なので室蘭保健所、ほかに幹事としては、主に振興局内の部局なんですけれども、社会福祉課、農務課、水産課、それから教育局さん、そういうところが幹事として参画をしておまして話をしているというところです。実は恥ずかしながら、それほど活発に動いておりませんので、ここに載せるのもちょっと恥ずかしいぐらいだったんですけども、ただ、昨年度から少し、今までよりは前向きに活動が始まりまして、幹事会なども数年ぶりに開催されたものですから、それで載せさせていただきました。その幹事会の中で今後は少し力を入れてやっていきたいと思いますということになっています。事務局の農務課のほうからいろいろと、例えば食育、6月の食育月間であったりですとか、食育に関する講演会や研修会とかそのような案内が来ますので、構成団体さんに広く周知をさせていただいたり、そのような活動をしております。

その下ですけれども、食べるたいせつフェスティバルへの出展というところですのでけれども、これもいぶり食育推進ネットワークとして食べるたいせつフェスティバルというものに出展をいたしております。食べるたいせつフェスティバル、主催はコープ札幌主催で開催されていたのですけれども、今年度、それから昨年度、残念ながらコロナの感染拡大防止のために中止となっております。もしかしたら皆さんの中にも関わりを持たれた方もいるかも知れませんが、規模、参加者数などは、一般市民の方対象ですけれども、ちょっと正確な数字は覚えてないんですけども、参加者数は数千人規模のイベントでして、お客さんがたくさん来られて、その中で市役所に食育SATシステムという非常に優れた、バランスチェックのためのシステムがあるんですね。すぐ食事のバランスが取れてるかどうか分かるようなものがありまして、その機械は非常に高い機械で良い機械なんですけれども、それをお借りいたしまして、来場者の方の食事の

バランスのチェックなどをしております。あと、農務課さんとか水産課とかそういうところは課の特色を生かしたブースの出展をされております。

それから、最後に3つ目、ほっかいどうヘルスサポートレストラン、これは全道で実施している事業ですけれども、主に飲食店、飲食店の方にご協力をいただいて、一つ星から三つ星という3段階の区分がありまして、登録をしていただきます。登録をしていただくと保健所から月に1回健康情報を発信させていただきまして、飲食店の方を通じてその飲食店の利用者の方たちに普及啓発をしていくと、そのような事業になっております。以上になります。

●五十嵐（昭）委員長 ありがとうございます。

次に、高橋委員、お願いいたします。

●高橋委員 月に一度協会だよりというものを発行しております。その中には消費生活全般についての情報や、今回は10月は食品ロス月間ということで、スーパーやコンビニなどで商品は手前から取りましょとかフードバンクに協力しましょというような情報を載せております。これは会員さんに配るもので、あとは公共施設に配付しておりますので、ぜひご覧になってください。

それと、食育通して料理教室を計画しております。牛乳を使った料理とお米料理、今年はお魚料理も計画しております。会員さんも高齢化して、一般の方にも募集はかけるのですが、少し高齢者対象みたいな感じになるのですが、若い方の参加もぜひ参加していただきたいと思っております。その中で食品ロスなども取り入れた料理教室にしていきたいと思っております。あと、講話というかセミナーを計画して、そこで何か食の安心・安全や地産地消についてのお話をさせていただいたりという活動もしております。地産地消としては、消費者協会の会員様限定なんですけれども、さくら米、おふくろみその購入もやっております。本当に会員さんが少なくなりまして、活動、若い会員さんたちにぜひ入っていただきたいんですが、地産地消でJAとまこまい広域さんの、昔は特別栽培米というのを皆さんに取っていただいていたんですけれども、胆振東部地震がありまして、田んぼが使えなくなったということで、今はさくら米の販売ということをやっております。ぜひ、おいしいお米なので食べていただければなと思っております。そのお米を使って料理教室はしていますので、ぜひ、機会があったら参加していただければと思います。よろしく願います。

●五十嵐（昭）委員長 ありがとうございます。

ただいま取組内容について報告がありましたが、事務局のほうからも説明をお願いいたします。

○山本管理栄養士 健康支援課の山本と申します。情報提供ありがとうございました。

第1次の食育計画でも関係団体の取組の紹介をさせていただきましたので、第2次計画でも引き続き市内の団体やボランティアの方が行っている取組を紹介していきたいと考えております。計画への掲載については、委員さんと内容の詳細を決めさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願います。

また、本日の報告以外に食育に関する取組がございましたら、先日皆様に送付させていただきました取組事業調査票にてご回答をお願いいたします。来週11月5日金曜日が締切りとなっております。

りますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

さらに、この計画を読む方により伝わりやすいよう、取組名だけではなく具体的な内容や写真も併せて掲載していきたいと思っております。写真については今年度のものだとありがたいのですが、コロナ禍で今年度は実施していない取組もあるかと思っておりますので、なるべく新しいものをご提供いただければ幸いです。また、本協議会にご参加いただいている団体以外からも食育関連の取組情報を募集する予定です。こちらはフェイスブック等を利用して告知いたしますので、ご了承くださいますようお願いいたします。以上です。

●五十嵐（昭）委員長 ありがとうございます。

それでは、最後にその他として、議事全体を通して委員の皆様からご意見並びにご質問があれば挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。

以上で本日予定していた全ての議事が終了いたしました。スムーズな議事進行にご協力いただき、誠にありがとうございました。

○出雲課長補佐 五十嵐委員長、ありがとうございます。

以上をもちまして第10回苫小牧市食育推進協議会を閉会いたします。

次回協議会は、令和3年11月24日水曜日を予定しております。委員の皆様には改めてご案内をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。